

極的に活用し、インドの事業環境、そして、どれだけの運転資金が必要になるのか等を踏まえた現

実的な資金計画を事前に立てておくことをお勧め致します。

豊富な品揃えが強み、豆菓子の徳永製菓

ほぼ絶え間なく日本食フェアが開催されるシンガポール高島屋・地下2階の食品売り場。シンガポール市場参入を目指す各地の食品メーカーさんが、自慢の商品を披露しています。「フェア中しか買えない」という希少価値もあり、フェア最中の人は上々、ということも多いのですが、シンガポールの市場で定番化される商品は多くはありません。お菓子でも何でも、世界中から商品が入ってくる食の激戦国シンガポールに、創業明治2年の老舗お菓子メーカー、徳永製菓も挑戦中です。

くきっかけはフルーツ輸入業者からのお声かけ>

同社が高島屋のフェアに参加したのは、今年から。2011年にもシンガポールの地場大手スーパーの売り場においてもらう機会がありましたが、そこではサンプルを配ったり商品説明をしたりできないため、価格だけが勝負の世界。ブランド認知度を上げてくれるパートナーの必要性を感じていたところ、「シンガポール人は豆菓子にはなじみがある。高品質の日本の豆菓子ならいいける」と日本の豆菓子メーカーを探していた日本の高級フルーツを扱う輸入商社に出会い、今年の

恩赦法案で再び揺れるタイ王国

「出そうで出ない、苦しい便秘のよう。いつかはその状況を抜け出せるが、タイを苦しめる困った存在だ。」と、タイの著名な社会批評家に揶揄されたタクシン元首相ですが、同氏を含め、赤組（タクシン派）と黄組（反タクシン派）の幹部を対象とした恩赦法案を巡る対立が激化しています。

タクシン派のタイ貢献党は同法案の成立に向け突き進み、それを阻止すべく野党民主党や反タクシン派グループが大規模な抗議集会を継続的に行ってています。一方、タクシン派の赤組も政府支持の集会を開いているため、両者の衝突が懸念され、バンコクでは久しぶりに緊張が高まっています。

シンガポール ビジネスソーター 碇 知子

シンガポール市場再挑戦となりました。

<香港、台湾とはちょっと異なる消費者嗜好>

同社は海外市場で実績があります。香港、台湾は7~8年前に参入。スイスにも少量、2~3年前から輸出しています。香港、台湾はシンガポールと同じ中華系が多い市場ですが、少しだけ消費者嗜好が異なるようです。トップの売れ筋が、同社



が製法に特許を持つ竹炭味のピーナッツやのりわさび、抹茶ミルク、というところは変わりませんが、台湾、香港ではあまり人気がない、カマンベール味、ミルク味がシンガポールでは中々の人気だそうです。また、シンガポールは外国人のお客様が多いのも特徴。人口の3分の1は外国人、またオーチャード通りの売り上げの4割は外国人観光客、というシンガポールの特性が現れているといえるでしょう。

<豊富な商品、定番化できそなのは?>

徳永製菓は自社生産品だけでも70種類、OEMも入れると100種類以上と、品揃えが多いのが強みです。現在はフェアやフルーツ売り場で、様々なテストや売り方の形態を試しながら、シンガポール市場の特性を見極めているところだそうです。

バンコク ビジネスソーター 富永 勇三

3年前のような、国家を揺るがす大規模衝突の再来はなんとしても避けなければなりません。

反タクシン派リーダーが「同法案に対する抗議活動をキックオフする」と声を張り上げたことから、抗議集会ではホイッスルの音が響き渡ると共に、とにかく現政権やタクシン元首相に対して「オークパイ、オークパイ（出て行け、出て行け）」と叫び続けています。Facebook等ソーシャルメディアの威力も凄まじく、反タクシン派の市民間では集会が周知されています。反タクシン派集会の参加人数もさることながら、継続性ある連携や一体感、また、集会の目的が恩赦反対から政権打倒